

過去問の学習方法

1. 毎年同じことを書いていますが、無料公開は初めて見る方もおられるのでご了承下さい。過去問は最高のバイブルです。専門校の答練にも良問はありますが、やはり本試験に叶うものではありません。特に事例Ⅳの経営分析は、各企業の数値を徹底的に洗い出す練習をすれば、必ず本試験での対応力を確保できます。平成 30 年度は、久しぶりに「読み取り」に困る問題でした。自身も解いてみましたが、合格圏内ギリギリというところでしょうか。専門校の後から解説を読んだり視たりすると、「本試験で、そんな対応ができたのかな？」と考えてしまいます。今回は、少し無謀な回答方法も提案しています（使うかどうかはお任せしますが・・・）では参りましょう。

事例Ⅳの本番での対処方法（一般的方法）

1. 最初の 15 分は、とにかく我慢。どこに配点があるか？そのうち自分は、どこで点を取るかをしっかり設計する。H30 年であれば、第一問は 16 点は取れる。第 2 問は設問 1 の WACC と設問 2 の CF は必須！設問 3 も事前練習で部分点可能でしょう。第 3 問は読み取りが難しいので「条件付き」で解答を書くしかないでしょう。ここは思い切りが大切です。設問 2 と設問 3 は難しいですが、販売管理費の内訳に気づけば書くことは可能です。第 4 問に関しては人材育成や外注管理の知識をもってくれば 10～15 点は可能でしょう。

第 1 問 16 点、第 2 問 10～15 点、第 3 問 10 点、第 4 問 10～15 点→46 点～56 点
(素点でこれくらいなら実際の傾斜では 55～65 点はあると思います)

2. 「いける」と思って途中まで実施した問題であっても、途中で無理と感じたら「すっぱり、あきらめる事」も大事

3. 記述問題は、とにかく「解答要求」と「与件」を照らし合わせれば、「何か」書く事は可能。過去の受験者から「あの答案でAとはビックリ」という声はよく聞きます。決してあきらめず、最後の 1 分まで力を振り絞ってください

ホームページで私の開示要求できた 2 回分の成績を公開しています。

最終的には、財務の充実と「ふぞろいな合格」シリーズで合格できたと確信しています。

予備校の気に入る答案ではなく、試験に通る答案を目指しましょう。

では、確実に取りたい論点から説明します

第1問

では今回の問題をD社と競合他者を比較してみましょう（下記の数値はチェックした方がよい）

	指標名	D社	同業他社
収益性	総資本経常利益率 (総合的な収益性を判定)	3.58%	8.93%
	売上高総利益率	24.15%	9.92%
	売上高営業利益率	1.20%	3.25%
	売上高経常利益率	1.20%	3.03%
効率性	総資本回転率	2.99回	2.95回
	棚卸資産回転率	150.3回	1815回
	有形固定資産回転率	17.08回	42.21回
	売上債権回転率	6.34回	6.51回
短期安全性	流動比率	133.79%	108.88%
	当座比率	121.72%	104.34%
長期安全性	固定比率	64.25%	86.49%
	固定長期適合率	53.99%	58.72%
	自己資本比率	35.59%	12.01%
	負債比率	181.01%	732.43%

※当座資産は現金預金＋売上債権で計算しています（中小企業庁方式）

他にも流動資産－棚卸資産で計算する方法もあります。その場合は記述欄に記した方が良いでしょう。

※今回は「同業他社と比較した場合のD社の課題」に対する指標なので、営業面の安定受注、生産面の設備更新・原材料のVA・物流合理化による加工コスト削減を考慮する必要があります。

売上高総利益率、固定比率の増大

優れている点→棚卸資産回転率

<与件分から考えられる指標・事象>

優れている指標→売上高総利益率・自己資本比率（結果として安全性全般）

課題の指標

→協力個人事業主の確保・育成 ∴

→加盟物流事業者との緊密な連携・向上

→配送ネットワークの強化（支店・営業所の拡充） ∴有形固定資産回転率

→労働集約的（優秀な人材採用・教育） ∴売上高営業利益率

<記述のポイント>

優れている指標→E社との関係により自己資本比率が高い（吸収時の資本剰余金 etc）

課題からの指標

→配送ネットワークの強化（支店・営業所の拡充） ∴有形固定資産回転率

→労働集約的（優秀な人材採用・教育） ∴売上高営業利益率

第2問

<設問1>

今年度の財務諸表をもとに

503	324	$\times 1\% \times 0.7 = 2.268$
	179	$\times 8\% = 14.32$

$$WACC = (2.268 + 14.32) \div (324 + 179) = 3.297 \dots \rightarrow 3.30\%$$

増加した資産 $\rightarrow 190 \times 3.3\% = 6.27$

※全資産なので WACC で計算

<設問2>

CFはCMC式PLで計算すれば簡単

<税引前利益> 400 (CIF) $- 395$ (COF) $- 1 = 4$

<税金> $4 \times 0.3 = 1.2$ (COF)

<増加CF> $400 - 395 - 1.2 = 3.8$

$6.27 > 3.8$ \therefore 企業価値向上

<設問3>

(一定成長の公式把握していればOK) ここは何とか取りたい

$$\frac{3.8 \times (1+X)}{0.033 - X} = \frac{190}{1}$$

たすきがけで計算

$$X = 1.2745 \dots \% \rightarrow 1.27\%$$

第3問

読み取り難しい→後回し
先に第4問

第4問

<知識ベース+与件から>

ノウハウや個人情報等が流出するリスクがある。対策は秘密保持契約を結ぶとともに、委託先への継続的な教育を行うことである。

最後に第3問

読み取りが難しい

- ★営業所1拠点増やす
- ★今年度の売上原価と販管費の内訳
- ★来年度は外注費7%増加
- ★営業所の開設により売上高と固定費が550、34増加　その他は同様

外注費増加は外的要因（人件費高騰）と考える
営業所の開設により売上高と固定費増加・・・その他（変動費）は同様

∴

売上高→1,503+550=

	当期	修正	次期
売上高	1,503		2,053
変動費外注費	782	836.74	
変動費その他	232		
変動販売費	33		
変動費計	1,047	1,101.74	1,505
貢献利益	456		548
固定費	438		472
営業利益	18		76
変動費率	1,047/ 1,503	1,101.74/ 1,503	
レバレッジ	25.33		7.2.

専門校とは違いますが、結果的に営業利益はあっています（結果論です）

（設問2）固定資産は少ない、固定費の伸び率は約7.7%（34/438）、修正変動費の伸び率は36.6%（403/1,101）と高い

（設問3）

当面の影響→固定費と変動費の伸び

さらなる開設と成長性を見通し→売上550伸び変動費403の伸び、固定費34の伸び

営業利益113の伸び

これをまとめて述べるイメージ